

「下市市恵比寿について」(創刊号掲載)に追記

二宮 壽

創刊号に私は標記の題目で、下市で一番古いといわれる遺跡で、下市の地名の故になるものといわれる市エビスについて、

1、その言い伝え「昔市が開かれていた時の市恵比寿」である。

2、江戸時代の書「雉城雜誌」に書かれている、「大分府内の河原市に、大友初代能直がおいた七蛭子を、能直の孫、挾間氏初代直重が祖父を見習い、挾間に市を開き市蛭子を置いた可能性がある。

3、大友氏滅亡のあと早川長敏、福原直高が府内藩主を交替して、荷揚城を中心に城下町を開き、そこにこの七蛭子を移転した。

4、現在残存する七蛭子を調べたが、トキハデパート屋上の檜物町の蛭子と、若宮八幡にある小物座町の蛭子の二つだけしか確認できなかった。

とレポートしましたが、今回富成栄六氏の「府内の蛭子様」の冊子入手、それにより蛭子残存の現状が分かりましたので追記します。

富成栄六氏は戦前大分中学校の教師で、地理を習った私の恩師です。大中の野球監督もしていましたが、いつも負けて応援に行つて残念な思いばかりでした。戦後は上野丘高校に引き続き勤めました。が、退職して研究、冊子にまとめたようです。その訳は、先祖が鎌倉の八幡宮から大友氏の氏神として大分に若宮八幡を、そして更に

七蛭子を大友氏の旧領、下総の国から大分に勧請した神官の氏族であったからです。このことは冊子に書かれてありますが、雉城雜誌にも明記されています。

七蛭子残存の現状

富成先生の「府内の蛭子様」には、大友時代に能直の置いた七蛭子の中、大友時代に、一つの蛭子は庄内に移されたと記してあります。その内容は次の通りです。

「現今蛭子神社を祀り、町内和合、講を蛭子講と名様の次第で、府内の蛭子神宮は六である。なお、老人の言によれば蛭子神宮は七蛭子なりしも、大友の家臣某が大分郡庄内に去るの節、主家に乞うて、その一つを庄内に奉遷したので、残り六蛭子となったものであるという。それで昔の記録にある六蛭子は次のようになる。

六蛭子—大分市万屋町、胡町、下市町、檜物町、中上市町、茶屋町。

大分郡庄内町に奉遷した蛭子様

七蛭子の一つを大友の家臣が大分郡庄内に去るに際して奉遷したことについて、庄内町中央公民館に調査してもらったが、全く手がかりが無いということで、県立碩南高校にも調べてもらったが不明であった。幸い同校に「庄内郷土史」があったので調べたが関係の記事がなく不明である。

以上が冊子の内容ですが、以前、私は二宮修二先生が庄内の史跡を調べている時に付いて行き、偶然庄内町西庄内の甲斐田に市蛭子

のあることを、発見していたのです。多くの蛭子様は自然石と蛭子の石像がセットですが、ここの玉状の自然石は割れていました。

七蛭子について、更に冊子の研究を付け加えます。

府内六蛭子の一つ、茶屋町の市恵比寿のこと

昔の記録には茶屋町とあるのに現存しないので、同町の旧家でもお年寄りのさよ子さんにお聞きしたところ同氏のお話では、「自分は茶屋町に古くから住んでいるが、蛭子様などをお祀りしてあることを全く聞いたことがない。」ということであった。そうなる一つ足りなくなるのでなんとか解決したいことと、探すことに興味を覚え、探し出すことにした。

ところが幸運なことに六蛭子の確認に各蛭子を祀ってある家を訪問してまわっている時に、三番目の下市町の蛭子を祀る菅野軽司氏を尋ね種々懇談している中で、小物座町、安部現男氏のお宅にも蛭子様お祀りしてあるとのこと、早速安部家を訪問して、その事実を確認した。(現在小物座町の蛭子は若宮八幡宮にある。)

(富成家には蛭子奉遷昔の記録があり、それには蛭子神社を最初に奉祀したのは府内工座町とあるのだそうですが、工座町は現在無く不明で、小物座町のことではないかと富成先生は記しています。)

市内浜町に鎮座する蛭子神社のこと

浜町の蛭子神社は、往時に瓜生島即ち当時の沖の浜に奉祀してあったものが、慶長の大地震の際府内の海岸に遷したものと伝えられ、能

直の蛭子とは別のものといわれている。(雉城雜誌には船頭町にあると書かれていることを言っているのではないかと思われまます。)

以上が富成先生の冊子の内容ですが、この六蛭子の中、西上市町の蛭子様は、太平洋戦争当時、大分大空襲で大分の中心部が全焼した時、焼け跡の片付けの時、灰や焼けくず等に混じって不明になったということ。従って現在大分には五蛭子しか残っていません。

この五つの蛭子様について私は実際に回って確認ができました。

トキハ屋上の檜物町の蛭子様、これは今も一月十日にエビス講が開かれているそうです。それに若宮八幡の小物座町の蛭子様、下市町の蛭子様は菅野歯科医院の屋敷奥、胡町と万屋町は道端にあり、自然石は丸い石が多くそれに恵比寿の石像の蛭子様の組み合わせでした。庄内甲斐田の蛭子様の割れた石が捨てられないかと心配です。これらの写真は紙面の許す範囲で末尾一ページに掲載しました。

挾間町上市の蛭子様も実在を確認できました。上市の中央、すぎざき荘の前ですが、自然石はなく恵比寿、大黒になっています。ところが、下市との境、岩尾商店の横に祠があり、ここには石像は蛭子と違うようですが、市蛭子とセットである自然石がついています。

雉城雜誌には「初め挾間市であったが、発展して上市、下市になった」とあり、上市は現在、地番の地名では上市でなく挾間なのです。そして下市の地名が歴史書に出現の始まりは天正七年(一五七九)の甲斐守文書の文面です。下市の市蛭子は上市の蛭子より時代が遅れ、挾間初代直重の時代よりもっと後になるのかもしれない。

由布市と府内大分の市蛭子様

挾間町下市は八坂神社に、府内檜物町はトキハ百貨店屋上、府内小物座町は若宮八幡宮、府内下市町は菅野歯科医院家の奥にあり、他はそれぞれの町の道端にある。府内の町名は創刊号66ページの大分市旧町名の地図による。

挾間町下市



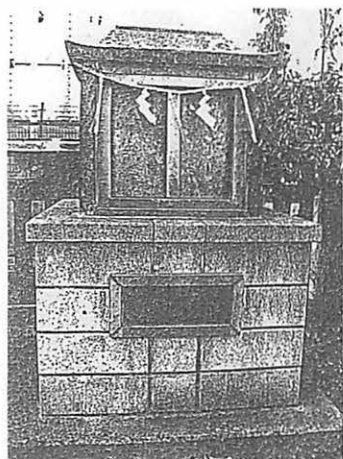
庄内町甲斐田



挾間町上市



府内小物座町



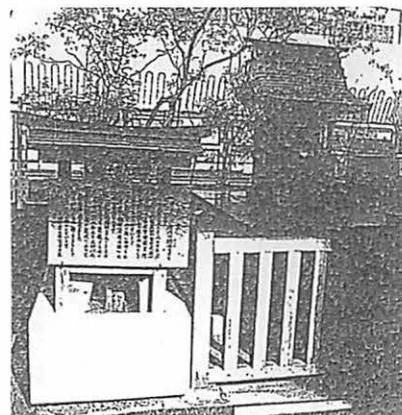
府内下市町



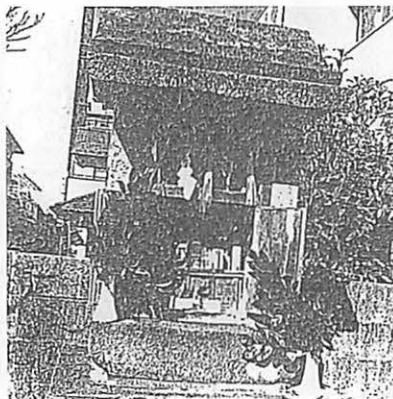
府内萬屋町



府内檜物町



府内胡町



府内萬屋町

